

アスペクト研究における問題点

郭 雲 輝

0. はじめに

近年、アスペクト (aspect) に関する研究が脚光を浴びるようになっており、それをテーマにした専門書が数冊刊行されているほか、学術誌に掲載された関係論文も相当な数に上っている。盛んに行われているアスペクトの研究だが、まだ多くの課題が残っているように思われる。特に、方法論的には解決すべき問題点があるのではなかろうか。本稿は、アスペクトの研究における問題点を取り上げて、所見の一端を述べることを目的とするもので、筆者自身が今後のアスペクト研究に当たっての心得として書いたものである。

1. アスペクトの諸説

従来、アスペクトは、印欧語において動詞に関する文法的なカテゴリーとして扱われてきたが、スラブ語では動詞の語形変化によって表現されるため形態論的なカテゴリーとされ、英語では構文論 (統語論) 的な手段によって表現されるため構文論的なカテゴリーとされている¹⁾。

一方、中国語では一般にアスペクトというカテゴリーが存在していると考えられているが、文法学者たちの主張は必ずしも一致しているわけではない。以下に年代順に代表的なものを挙げてみよう。

陳平 1988 では、文の“时相” phase “时制” tense “时态” aspect をまとめて中国語の“时间系统” (時間的表現の体系) と呼び、それは文法的なカテゴリーであると規定している。それに対して龔千炎 1995:5 では、異なる見解が

示されている。

現代汉语的时间系统是一个“词汇・语法范畴”，而印欧语的时间系统则是一个语法范畴。

戴耀晶 1997：6 には、次のような論述が見られる。

一种语言里只有具备了表达时意义和表达体意义的形态，才可以说该语言具备了时范畴和体范畴。范畴是通过形态形式而不仅仅是通过词语形式来表达的。正是在这个意义上，我们认为现代汉语里没有时范畴，但是有体范畴。最近では、陸俊明 1999 が注目すべき異論を唱えている。

汉语里没有印欧语里那种“时 (tense)”，这几乎已成为汉语语法学界的共识。有没有印欧语那种“体 (aspect)”？看法就不一了。我认为，汉语里同样没有像印欧语里那种“体 (aspect)”。“体 (aspect)”作为一个语法范畴，一定有一个完整的系统；某一种“体”一定有某种特定的形式标志，而且一定能适用于虽不说全部也应该是绝大部分动词。汉语里显然不存在类似英语的“to be+动词的现在分词” (present) [原形动词+ing] 这样的动词进行体或“to have+动词的过去分词 (past participle) [原形动词+ed]”这样的动词完成体。

以上のように、中国語文法学者の考えは多種多様であるが、それぞれの考えにはそれなりの根拠がある。以下では、上記の主張を手がかりに論を進めていきたいと思う。

2. カテゴリーとしてのアスペクト

2.1 カテゴリーとしてのアスペクトの再確認

アスペクトについて論じる前に、まず、カテゴリーとしてのアスペクトはどのような性格のものであるかを確認しておきたい。

アスペクトは動詞に関する文法的（形態論・構文論）なカテゴリーだと規定するなら、中国語にはカテゴリーとしてのアスペクトの有無を決めるためには、全ての動詞、少なくとも大多数の動詞がアスペクト的な意味を表現するための特定の表現形式を持つかどうか、持つなら、それが一つの体系を成してい

アスペクト研究における問題点

るかどうかが大きな決め手になるというのが、陸 1999 の主な論点である。氏は更に、中国語においてはアスペクトが動詞のアスペクト的なマーカールによって表現されているのではなく、語彙的または構文論的な手段によって表現されているため、アスペクトというカテゴリーが存在しないのだと、論を展開している。そして、アスペクト的な意味を表す“着”も動詞の接尾辞や動詞の語尾ではなく、単語（助詞）だという説を取っている。

しかし、“了”“着”“过”が本来の語彙的な意味を失って、動詞に付いてアスペクト的な意味を表すときにそれらと動詞の間に他の構文論的な要素が入り込むことがないのは紛れもない事実である。そして、以下表 (1) ~ (3) のデータに挙げるように、大多数の動詞にはこれらのマーカールがつくのである。

まず、胡裕樹・範曉 1995 によると、《动词用法事典》に収録されている 1266 語の常用動詞のほとんどが“了”と組合わさり、大多数の動詞が“着”と組合わさり、これをまとめたものが表 (1) である。

“了”“着”与动词配合情况表 表 (1)

形态	可带数	%	不可带数	%	不带动词义项数 ²⁾
了	1198	94.6	68	5.4	168
着	915	72.3	351	27.7	712

一方では、劉彤・楊茜 1998 が《普通话 3000 常用表》に収録されている 998 語の動詞を対象に調査した結果は表 (2) 通りである。

表 (2)

分类	数量	占总量 (998) 的百分比
可以使用了/着/过的动词	763 个	76.45 %
可以使用了/过的动词	91 个	9.12 %
可用了, 用着/过时把动词分成动宾两部分	119 个	11.92 %
只可以用着/过的动词	0 个	0 %
只可以用着/了的动词	0 个	0 %
只可以用了的动词	3 个	0.3 %
不能用了/着/过的动词	22 个	2.21 %

表(2)を整理すると、表(3)のデータが得られる。

表(3)

分類	数量	占总量(998)的百分比
可以用了的动词	976	97.79 %
可以用着的动词	882	88.37 %
可以用过的动词	973	97.49 %

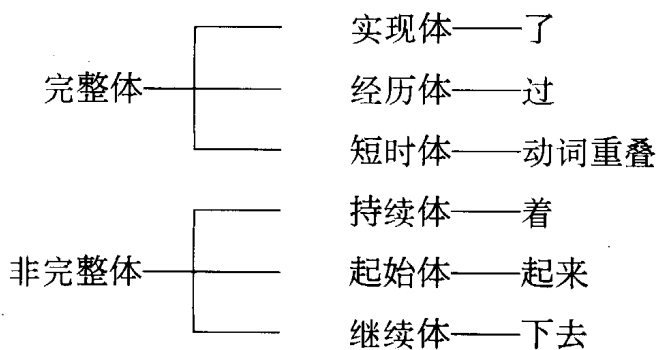
表(3)からは、“了”“着”“过”などは、すでにアスペク的な意味を表現するためのマーカー、正確に言うと、動詞の語尾として定着しているとも見てよいだろう。もちろん、陸氏が指摘しているように、アスペク的な意味を表すときには、こういったマーカーのついた、即ち有標(marked)の形式を採用するとは限らないが、氏の指摘に対しては、中国語の動詞がアスペク的な意味を表すときは、アスペクのマーカーが付かないこともあると付け加えて言えばよいだろう。言い換えれば、アスペク的な意味を表すとき、英語の場合は有標の文法形式を採るのが義務的であるのと異なり、中国語の場合は義務的ではないということである。大切なのは、文法的な意味を表現する場合、有標の文法形式を採るほかに、無標の形式を採ることもあるという一般言語学の原則や事実であろう。

2.2 有標と無標

ここで強調したいのは、文法形式を狭く理解してはならないということである。つまり、文法的カテゴリーを構成する項目のすべてが有標とは限らないということである。このような例はいくらでも挙げられる。アスペクに限って言えば、ロシア語のアスペクのカテゴリーは完了体と非完了体との対立によって構成されているが、その完了体が有標項であり、非完了体が無標項なのである³⁾。

しかし、かつて、日本語のアスペク研究者がそうであったように、中国語のアスペク研究者たちも、とかく有標の形式にばかり注意が向けられ、無標の形式を見落としがちだったのではないだろうか⁴⁾。このことは、すでに張済脚 1996 によって指摘されているところである。実は、早い時期に王力 1943 ~

1944、1985 では、中国語のアスペクトの体系が有標と無標との対立としてとらえられており、いわゆる「普通貌（一般相）」が無標であるとしている。残念ながら、このようなとらえ方は、その後の研究者からは注目されなかった。例えば、戴耀晶 1997 では、アスペクトの体系を次のように考えている。



ここでは動詞の無標の形は正当に位置づけられていないが、実際には、中国語の動詞の無標の形はアスペクト的な意味を表す上で重要な役割を果たしている。

1) 钟灵接受这个十万火急的命令后，顾不得想什么，跳上一辆吉普车，指挥司机朝他中南海工作室急驶而去。(中华读书报 1999 年 9 月 22 日)

2) 街上，披麻戴孝的乡民，手持香枝默默流泪穿梭来往。

(北京青年报 1999 年 9 月 24 日)

3) 澳门特区筹委会第三次全体会议圆满结束。(北京晚报 98, 9, 24)

4) 吴迪冲亚红笑笑，亚红冷眼打量她。(王朔自选集 p. 109)

1) ~ 4) の例では、いわゆるアスペクトのマーカが付いていない動詞の語形が間違いなく「完成」や「持続」などのアスペクト的な意味を表している。最近、左思民 1999 にもこれについての言及がある。要するに、無標の用法を無視して有標の場合のみを扱うだけでは、中国語のアスペクトの実態を明らかにすることができないということである。しかし、どういう場合に有標の形を、どういう場合に無標の形を使わなければならないのか、またどういう場合に有標の形と無標の形のどちらを使ってもよいのかを究明することは今後のアスペクト研究の課題となるだろう。李亚興 1989 と劉勳寧 1999 はこのような調査をして、一部の法則を見いだしている。

2.3 アスペクトと文体

ところで、アスペクトの研究に際しては文体別に調査することが大切ではな
 かるうか。なぜなら、文体によってアスペクト的な意味を表す動詞の語形が異
 なるからである。例えば、“了”は説明文や学術論文ではあまり使われず、新
 聞の報道やコミュニケなどにはほとんど現れないという報告がある⁵⁾。また小
 説の地の文は会話文ほどアスペクト的なマーカーを必要としないのも経験的に
 分かることである。郭雲輝 1999 では、新聞の文体を対象に無標のアスペクト
 の用法について考察を加え記述している。

2.4 アスペクトの体系

もし、動詞の無標の形をアスペクト的な意味を表す語形として認めるなら
 ば、それがアスペクトの体系の中に位置づけられるのは当然のことであろう。
 その無標の形を取る動詞は「真理」、「習慣」、「完成」、「持続」などの意味を表
 し得るもので、有標の形を取る動詞より意味範囲が広いので、「一般相」或い
 は「基本相」と名づけてよいのではないかと思われる。ちなみに“起来”、“下
 去”の場合は、アスペクト的な意味を表す形式であることは間違いないのだ
 が、それらと動詞の間に“了”や“得”、“不”などが挿入されることがあり、
 まだ完全に動詞の語尾として定着していないため、“了”、“着”、“过”と同様
 に扱うことはできない。

一般相 (基本相)	0
完成相	了
持続相	着
経験相	过

3. テンスとアスペクト

3.1 テンスとアスペクトとの関わり

テンス tense は、アスペクトと同様に時間に関わるカテゴリーではあるが、
 前節で見たように、中国語にはテンスというカテゴリーがないというのが通説

になっている。例えば、戴耀晶 1997:32 には次のような論述が見られる。

在现代汉语里,“了”,“着”已经承担了事件构成“体”这一语法范畴的形式,无法同时承担时间构成“时”这一语法范畴的形式。

このような、テンスとアスペクトを完全に対立させたとらえ方は非常に疑わしい。事実、日本語の場合は、同じ語形がアスペクト的な意味とテンス的な意味を同時に表していることが明らかにされているのである⁶⁾。

テンス アスペクト	非過去	過去
完成相	する	した
継続相	している	していた

ヤーホントフ 1957、1987 は、中国語にはアスペクト的テンスのカテゴリーが存在することを力説し、その表現手段として“了”“着”“过”などを挙げている。つまり、動詞の語尾である“了”“着”“过”はアスペクト的な意味を表していると同時に、不完全ながらテンス的な意味をも表していると言っている。

最近の研究では、前出の張濟卿 1996 が注目し値する。ここでは、氏は中国語のテンスの体系は、主に未来と非未来との対立によってつくられていることを述べている。その中で、未来のテンスが有標項であるという。また竟成 1996 も金立鑫 1998 も“了”を、アスペクトとテンスの混合したマーカーであると主張している。さらに李熙宗、霍四通 1998 も、中国語のアスペクトとテンスが簡単に切り離せるものではなく、それについて考え直すべきだと述べている。いずれにせよ、中国語ではアスペクト的な意味を表す語形とテンス的な意味を表す語形が融合していると言っよいのではなかろうか。

3.2 タクシス

戴耀晶 1997:32 では、次のような例を挙げて、“了”がそれぞれ過去、現在、未来の出来事を表す文に使われることを理由に、“了”は過去のテンスではないことを主張している。

- 5) a. 昨天, 王颖吃了饭去上学。
- b. 王颖现在吃了饭去上学。

c. 明天, 王颖吃了饭去上学。

一つの語形の表す文法的な意味を考察するには、それが文のどこに位置するのか、限定しなければならない。なぜなら、構文的な位置が違えば、その語形の表す意味や用法が違って来るからである。李鉄根 1999 によれば、述語への“了”、“着”、“过”の使用より規定語へのその使用の方が多くの制約を受けているという。従って、動詞の語形の表す基本的なアスペクト的、テンス的な意味を考察するときには、単文の述語の位置や複文における主文の述語の位置に使用される場合を対象にするのが普通である。

一方では、複文や連動文においては、“了”と“着”は、それぞれ「完成」と「持続」或いは「過去」と「現在」といった意味を表すより、タクシス taxis (出来事間の時間的順序性) を表していると考えられる⁷⁾。具体的に言うなら、“了”は二つの出来事間の先行=後続の関係を、“着”は同時の関係を表しているのである。以下の 6) ~ 11) は、タクシスを表す例である。

6) 说完了, 我转身回到了自己房里。(建功小说精选 p, 138)

7) 她脱了高跟鞋换上拖鞋。(王朔自选集 p, 204)

8) 他又点着了一枝烟, 一言不发地抽着。(建功小说精选 p, 166)

9) 我到厨房靠着门框看她洗头。(王朔自选集 p, 550)

10) 米兰微笑着掉头看假山四周的风景, …… (王朔自选集 p, 560)

11) 一边跳着, 我还一边跟那帮小子们使眼色。(建功小精选 p, 133)

また条件文についても同じことが言える。

12) ……不管怎么说, 这支曲子完了, 他们就得到冷饮室请我的客啦。

(建功小说精选 p, 133)

13) 他点一枝烟, 笑了笑, “喝呀, 喝完了自己倒。……”

14) “……就拿您的手艺当个玩意儿得啦。有老哥们儿来了, 剃一个。剃完了, 扯扯淡, 听一段儿, 乐呵乐呵, 还落个闲在呢!”

(建功小说精选 p, 171)

4. むすびに代えて

アスペクトの研究に際しては、文法学者によって“术语”の規定が異なるこ

アスペクト研究における問題点

とがアスペクト研究の大きな問題点であると思う。例えばアスペクトは“时态”、“动态”、“动相”、“情貌”、“态”、“体”と訳され、テンスも“时”、“时制”、“时态”などと訳出されているが、それらがどういったものであるかが規定されずに様々な意味で使われているのは好ましい状況とは言えないだろう。これからの研究をより精密なものにするためにも、用語を正確に使いたいものである。

工藤真由美 1995⁸⁾を参考にして次のような用語を使って形態論的カテゴリーと構文論的カテゴリーを区別することを提起したい。

<形態論的カテゴリー>

<構文論的カテゴリー>

aspect	アスペクト	体	aspectuality	アスペクチュアリティ	体态
tense	テンス	时	tenpolality	テンポラリティ	时态
mood	ムード	式／语气	modality	モダリティ	情态

以上見てきたように、アスペクト研究では無標の動詞に関する研究がほとんど行われていないが、そこに大きな問題があると言える。また、文体別に調査することもほとんど行われておらず、これも問題であろう。また、“了₂”の表す“语气”とアスペクトの関係を考慮する必要があるではないかと思われる。今後、これらの問題点を念頭に入れながら研究していきたいと思う。

注

- 1) 松浪有・池上嘉彦・今井邦彦 1994 : 491 と田中春美 1996 : 96 を参照されたい。
- 2) 胡裕樹・範曉 1995 : 52 参照
- 3) 原求作 1996 : 26 参照
- 4) 奥田靖雄 1977 参照
- 5) 李熙宗、霍四通 1998 参照
- 6) 奥田靖雄 1993 参照
- 7) 工藤真由美 1995 : 10、21 参照
- 8) 工藤真由美 1995 : 27 ~ 28 には次のような論述がある。

従来、アスペクト、テンスという用語は、文レベルの、様々な表現手段（形態論的、構文論的、単語派生的、語彙的手段およびその複合）からなる〈機能・意味的カテゴリー〉として広義にも、単語レベルの〈文法的＝形態論的カテゴリー〉をさして狭義にも、使用されている。両者を区別して、前者を（アスペクチュアリティー）、（テンポラリティー）、後者を（アスペクト）、（テンス）と呼ぶことにしよう。

アスペクチュアリティー、テンポラリティーのない言語は、おそらくないであろうが、形態論的カテゴリーとしてのテンス、アスペクトのない言語は、ありうる。

そして、現代日本語のように、形態論的カテゴリーとしてのアスペクト、テンスのある言語であっても、これだけで、文のなかに現象するわけではない。アスペクトにおいては、動詞の語彙的意味との結合性は必然的であるし、テンスにおいては、時間副詞という語彙的手段との共起が頻繁である。後述するところであるが、アスペクト、テンスという形態論的カテゴリーにおいては、時間的意味の抽象度（一般化の程度）が、非常に高い。

参考文献

- 王力 1943～1944、1985《中国现代语法》商务印书馆
朱德熙 1982《语法讲义》商务印书馆
陈平 1988〈论现代汉语时间系统的三远结构〉《中国语文》第6期
吕文华 1992〈“了₂”语用功能初探〉《语法研究与探索》（六）语文出版社
龚千炎 1995《汉语的时想 时制 时态》商务印书馆
胡祐树・范晓 1995《动词研究》河南大学出版社
竟成 1996〈关于汉语时间系统〉《中国对外汉语教学学会第五次学术讨论会论文集选》北京语言学院出版社
张济卿 1996〈汉语并非没有时制语法范畴——谈时体研究中的及格问题〉《语文研究》第4期
徐通锵 1997《语言论》东北师范大学出版社
戴耀晶 1997《现代汉语时体研究》浙江出版社
刘彤・杨茜 1998〈“汉语动词+了/着/过”的使用规律〉《汉日研究文集（一）》北

アスペクト研究における問題点

京出版社

- 武果・吕文华 1998 〈“了₂” 句句型场试析语〉《世界汉语教学》第 2 期
- 陆俭明 1999 〈“着 (zhe)” 字补议〉《中国语文》第 5 期
- 左思民 1999 〈现代汉语中“体”的研究—兼及体研究的类型学意义〉《语文研究》
第 1 期
- 李熙宗・霍四通 1998 〈汉语语体研究中引入时间范畴的几点思考〉《语言研究的新
思路》上海教育出版社
- 顾阳 1999 〈动词的体及体态〉《共性语个性—汉语语言学中的争议》北京语言文
化大学出版社
- 金立鑫 1998 〈试论“了”的时体特征〉《语言教学与研究》第 1 期
- 刘勋宁 1999 〈现代汉语的句子结构与词尾“了”的语法位置〉《语言教学与研究》
第 3 期
- C, E, ヤーホントフ 1957、1987 『中国語動詞の研究』(橋本万太郎訳) 白帝社
- 奥田靖雄 1977 「アスペクトの研究をめぐって——金田一的段階——」『国語国
文』8号 宮城教育大学
- 奥田靖雄 1993 「動詞の終止形(その1)」『教育国語』第2・9号
- 松浪有・池上嘉彦・今井邦彦 1994 『大修館英語学事典』4版、大
修館書店
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 田中春美他 1996 『言語学入門』30版、大修館書店
- 原求作 1996 『ロシア語の体の用法』水声社
- 郭雲輝 1999 「中国語の時間表現に関する一考察——無標の場合を中心に」
『お茶の水女子大学中国文学会報』第18号

付記

本稿は保坂律子さんから種々ご教示、ご助言をいただきました。記して感謝の
意を表したいと思います。